

平成23年度 第1回 瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
瀬戸内海区水産研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(平成23年5月～6月)のポイント

(1) 来遊量：

シラスは紀伊水道東部を除いて前年、平年を下回る。

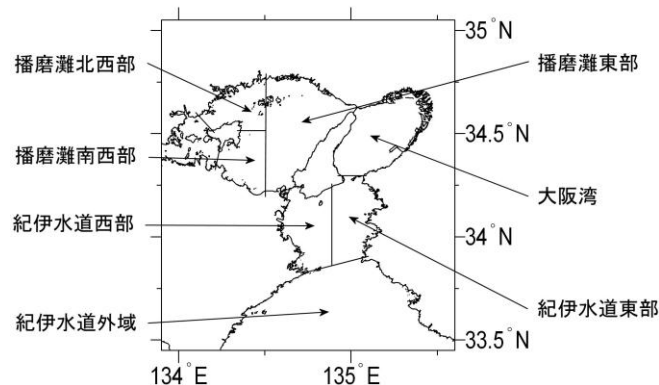
(2) 漁場：

紀伊水道東部では平年並みであった前年、平年を上回る。

紀伊水道西部では不漁であった前年を下回る。

大阪湾、播磨灘東部及び播磨灘北西部では好漁であった前年、平年を下回る。

播磨灘南西部では不漁であった前年を下回る。



問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課

担当：沿岸資源班 新村、川村

電話：03-3502-8111(内線6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

独立行政法人水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所 業務推進部

電話：0829-55-3406、ファックス：0829-54-1216

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://feis.fra.affrc.go.jp/>

平成23年度第1回瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

1. 今後の見通し（2011年5月～6月）

シラス（本年春季発生群）

紀伊水道東部では平年並みであった2010年、平年を上回る。

紀伊水道西部では不漁であった2010年を下回る。

大阪湾、播磨灘東部及び播磨灘北西部では好漁であった2010年、平年を下回る。

播磨灘南西部では不漁であった2010年を下回る。

標本漁協、もしくは標本船のシラス漁獲量を各海域の指標とし（図1～3）、特に断りがない場合、1985～2009年の平均値を平年値とした。

2. 漁況の経過（2010年4月～2011年4月）及び今後の見通しについての説明

(1) シラス漁況

紀伊水道東部（和歌山県側）では2010年の漁獲量は前年の151%、平年の91%であった。2010年5～6月の漁獲量は前年の123%、平年の89%であった。

紀伊水道西部（徳島県側）では2010年の漁獲量は前年の121%、平年の58%であった。2010年5～6月の漁獲量は前年の105%、平年の53%であった。

紀伊水道北部（兵庫県側）では2010年の漁獲量は前年の110%、平年の101%であった。2010年5～6月の漁獲量は前年の108%、平年の98%であった。

大阪湾（大阪府）では2010年の漁獲量は前年の200%、平年の222%であった。2010年5～6月の漁獲量は前年の479%、平年の275%であった。

大阪湾（兵庫県）では2010年の漁獲量は前年の153%、平年の146%であった。2010年5～6月の漁獲量は前年の311%、平年の172%であった。

播磨灘東部（兵庫県側）では2010年の漁獲量は前年の213%、平年の165%であった。2010年5～6月の漁獲量は前年の409%、平年の227%であった。

播磨灘南西部（香川県側）では2010年の漁獲量は前年の95%、平年（1989～2009年の平均値）の146%であった。2010年5～6月の漁獲量は前年の20%、平年の46%であった。

播磨灘北西部（岡山県側）では2010年の漁獲量は前年の86%、平年（2000～2009年の平均値）の202%であった。2010年5～6月の漁獲量は前年の72%、平年の167%であった。

4月25日現在、2011年の春漁は全ての海域で始まっていない。

(2) 日向灘～紀伊水道での産卵量

中央水産研究所、瀬戸内海区水産研究所がとりまとめたカタクチイワシの産卵状況では、2011年1～3月の産卵が日向灘～紀伊水道外域で認められ、合計産卵量は2兆粒（前年比2%、平年比1%）であった。

和歌山県農林水産総合技術センター水産試験場と徳島県立農林水産総合技術支援センター水産研究所が行った定線調査（4月は紀伊水道外域東部と紀伊水道東部のみのデータ）では、紀伊水道外域での卵密度は2月に0粒/m²（前年11粒/m²、平年37粒/m²）、3月に2粒/m²（前年比9%、平年比1%）、4月に102粒/m²（前年比216%、平年比78%）であった。仔魚密度は2月に0個体/m²（前年1個体/m²、平年10個体/m²）、3月に0個体/m²（前年7個体/m²、平年36個体/m²）、4月に1個体/m²（前年比2%、平年比2%）であった。紀伊水道での卵密度は2月に前年同様0粒/m²（平年0.02粒/m²）、3月に1粒/m²（前年比446%、平年比65%）、4月に21粒/m²（前年0粒/m²、平年比116%）であった。仔魚密度は2月に前年同様0個体/m²（平年0.1個体/m²）、3月に0個体/m²（前年9個体/m²、平年8個体/m²）、4月に1個体/m²（前年0個体/m²、平年比10%）であっ

た。

(3) 今後の見通しの説明 (2011年5月～6月)

シラス (本年春季発生群)

4月21日現在、黒潮は室戸岬～潮岬までがやや離岸しているが、紀伊水道外域には黒潮系暖水の波及が見られる。各岬における黒潮離岸距離の変動傾向と気象庁で運用されている海況モデル予測結果を併せて考慮すると、室戸岬～潮岬での黒潮流路は5月に接岸、6月にやや離岸すると予測される。

紀伊水道の春季シラス漁は日向灘～紀伊水道外域での産卵量と来遊環境に主に依存する。5月に黒潮が接岸すると予測されているため、例年漁獲量が多い5月の来遊環境は良いと考えられる。日向灘～紀伊水道外域の1～3月の合計産卵量は平年を下回ったが、紀伊水道外域東部では4月に前年を上回ったことから、紀伊水道東部では平年並みであった2010年、平年を上回ると予測される。紀伊水道西部では紀伊水道外域でのカタクチイワシ卵仔魚密度が2010年、平年を下回っていることから、不漁であった2010年を下回ると予測される。

大阪湾及び播磨灘の春季シラス漁は日向灘～紀伊水道外域での産卵量、紀伊水道及び紀伊水道外域でのシラス現存量、来遊環境に主に依存する。室戸岬～潮岬での黒潮流路は5月に接岸し、6月にやや離岸すると予測されていることから、来遊環境は5月にやや好転するものの、6月はそれほど良くないと考えられる。日向灘～紀伊水道外域の1～3月の合計産卵量は平年を下回っており、紀伊水道外域～紀伊水道の卵仔魚密度も総じて低い。紀伊水道でのシラス漁も始まっていないことから、大阪湾、播磨灘東部及び播磨灘北西部では好漁であった2010年、平年を下回ると予測される。播磨灘南西部では上記の理由から不漁であった2010年を下回ると予測される。

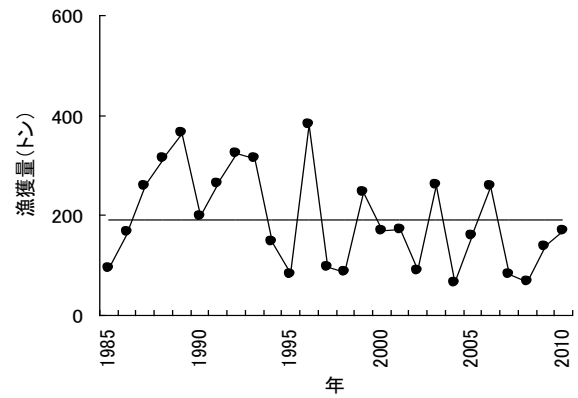
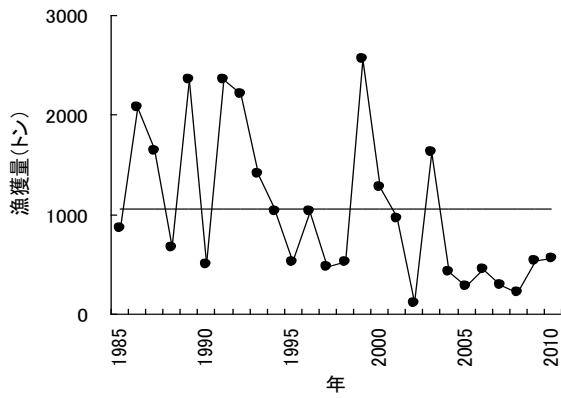


図1 紀伊水道西部（徳島県側：左図）及び紀伊水道東部（和歌山県側：右図）の標本漁協における5～6月のシラス漁獲量（実線は平年値を示す）

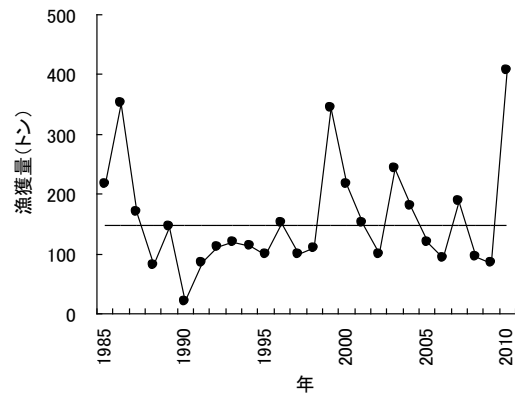
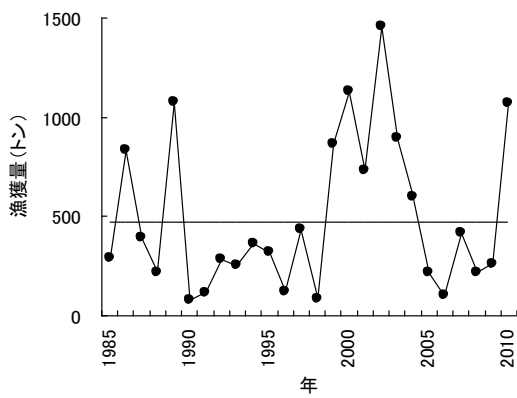


図2 大阪湾（兵庫県：左図、大阪府：右図）の標本漁協における5～6月のシラス漁獲量（実線は平年値を示す）

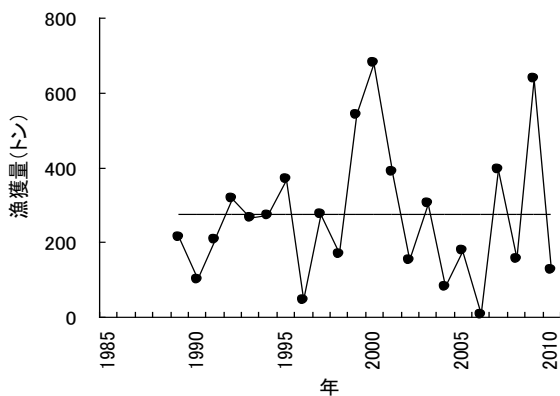
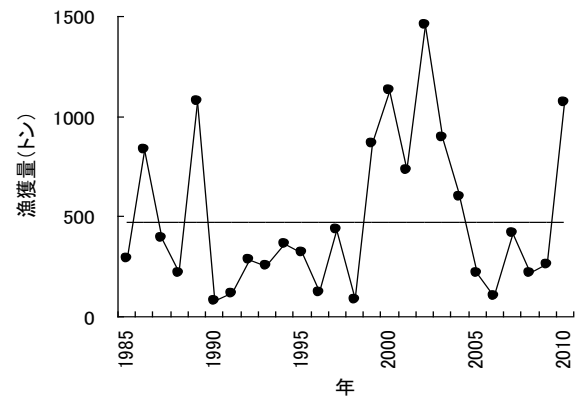
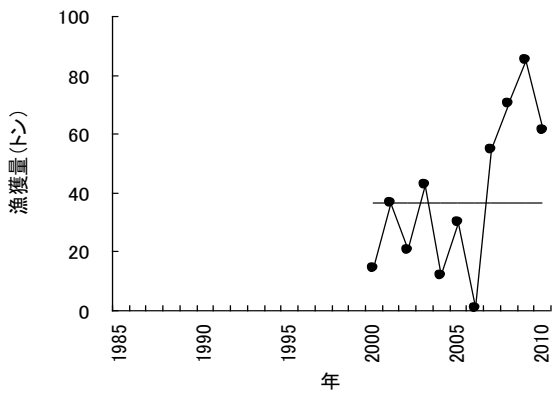


図3 播磨灘北西部（岡山県側：左上図）の標本船における5～6月のシラス漁獲量、播磨灘東部（兵庫県側：右上図）、及び播磨灘南西部（香川県側：左下図）の標本漁協における5～6月のシラス漁獲量（実線は平年値を示す）

参画機関

和歌山県農林水産総合技術センター 水産試験場	香川県水産試験場
大阪府環境農林水産総合研究所 水産技術センター	徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究所
兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
岡山県農林水産総合センター 水産研究所	独立行政法人 水産総合研究センター 中央水産研究所 瀬戸内海区水産研究所